

## 第40回日本TDM学会・学術大会に参加して

大阪医科薬科大学 薬物治療学 I 研究室  
岡田真緒 高田羽菜

2024年7月14日から15日の2日間第40回日本TDM学会・学術大会が北海道大学高等教育推進機構 医学部百年記念館で開催された(図1)。

本学術体会では北海道大学大学院薬学研究院教授 北海道大学病院薬剤部長 菅原満先生が会長をされ、国際シンポジウムや様々な先生を招いたプログラムが組まれていた。また、ポスター発表や口頭発表があり、その他に教育講演やシンポジウムが企画され、非常に奥深い内容の学術であった。



図1 第40回日本TDM学会ポスターと学会会場

### ・日本TDM学会について

日本TDM学会は、科学的基盤に立脚したTDM(Therapeutic Drug Monitoring)に関する学理および臨床応用について広く研究対象とし、その普及と科学技術の発展や、良質な薬物治療の提供による医療・社会への貢献を目的としている。本学会の活動は約40年に渡って継続されており、学術大会や学会セミナーの開催、機関誌「TDM研究」の発行に加え、関連学会と共同していくつかの薬物血中濃度モニタリングに関するガイドラインを作成し、医療に貢献してきた。第40回学術大会のメインテーマは「TDMによる医療エビデンスの創出～TDMはあなたの強力なサポーター～」とし、これまで継続に研究がなされてきたTDMの考え方や技術は、すでに医療の現場で活用されそのエビデンスが蓄積されてきている。

・学会を終えての感想

【岡田】

私は、「グリチルレチン酸の抗ジゴキシン抗体に対する交差反応の検討」について発表させていただきました。学会での発表は初めてでとても緊張しましたが、薬剤師の先生方や大学の先生方と本研究について様々なディスカッションができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

【高田】

私は、「カルバマゼピン誘発性肝障害発症機序の解明とバイオマーカーの探索」について発表させていただきました。たくさんの方々に質問をいただき、TDMの考え方をより深く考えることができました。これからの研究にいかしていきたいと思います。

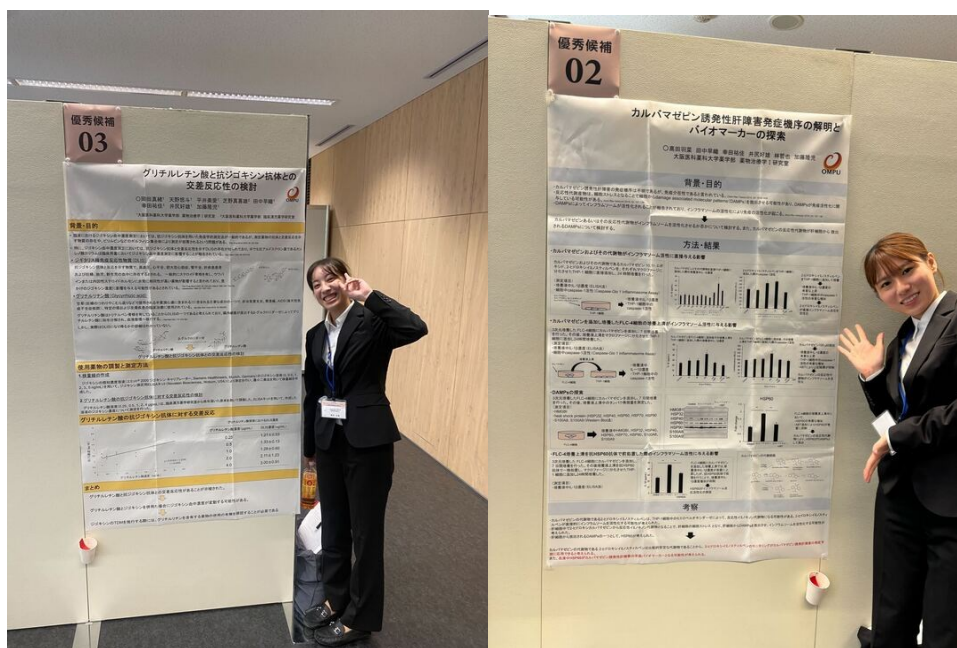


図2 ポスター発表を行った著者 左：岡田真緒 右：高田羽菜